

地域づくり **Close-up**

文化財の継承を通して 膨らんで行く地域活動



【吉岡巨石塚保全グループ】
平成20年に地域づくり活動団体として認定された吉岡巨石塚保存会。吉岡地区にある町指定史跡「吉岡巨石塚」の保全や雄熊山の頂上付近にある烽火台跡の整備、子どもの登下校の見守りを通して、地域の交流を深める活動に取り組んでいます。

地域づくり活動を行おうと思ったきっかけは

吉岡巨石塚は古墳時代後期に花崗岩を組み合わせて作られた豪族の古墳です。現在は宅地造成などにより墳丘の盛土が取り除かれ、横穴式石室の石組みが残っています。巨石塚は民家の敷地内にあり、庭園の一部として個人が管理していました。ところが空家となり、草や木が巨石塚を覆ってしまふなど、景観面や防犯面でも心配視されるようになったことから地域で保全管理することを話し合いました。

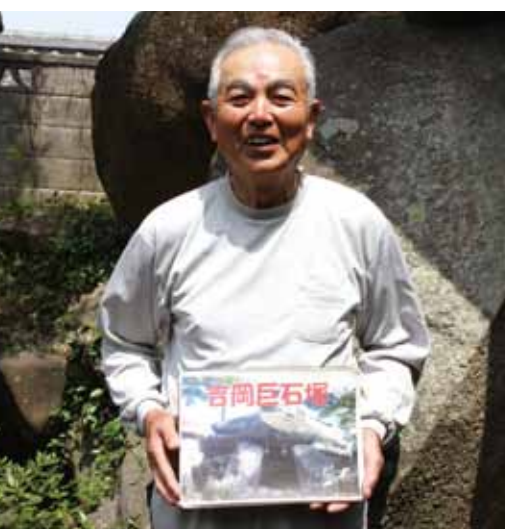
また話し合いの中で昔は遠足などで、よく利用されていた雄熊山がやぶになってしまい、登ることができないので地域の力で昔の景勝地を取り戻そうという声もあがりました。

女性の皆さんからは、地区の道路が狭く、登下校の安全のため、見守り活動を行った方がいいのではという意見も出されました。そしてこれらを地域づくり活動団体として活動するため、申請し認定を受けました。

として実際のろしが上げられていた場所が当時のように中津方面が一望できる景勝地に生まれ変わりました。新しく、桜やつつじを植樹し、地域の皆さんと花見ができるようになりました。また、烽火台跡を整備したことにより、「200年前のろしを再現」するイベントに参加することができました。のろしりーは歴史・文化を共有する「とよのくに」に古くから残されているのろし台などをつないで、宇佐から疍田までの8地点で行うものです。当日はドラム缶から煙が出やすいように薪やヒノキやスギなどの生枝を詰めスタンバイ。多くの人が見守る中、無事着火することができました。風が強くなかなか煙が上がってくれませんが中津城からもはっきり確認することができたそうです。のろしりーの後は山から中津方面を眺めながら参加者と交流を深めました。これを機会に多くの皆さんが雄熊山を訪れてくれるように引き続き活動を続けていきます。

太鼓の音色で地域に活気をプラスする

吉岡地区はこれまで子ども会や老人会が合同で空き缶拾いをしたり、どんど焼きなどの交流活動を行っていましたが、ここ数年で高齢化が進み、子どもの数も減ってきました。このままでは地域の交流が増々希薄になることが予想されます。このため、新たな地域交流活動として、地元の神社で行われていた秋祭りでの祭太鼓を復活させてはという提案があり



地域の宝として次世代に引き継いで行く

巨石塚の保全活動は木の剪定や草刈りを中心に年4回行っています。お盆前には提灯をかざったり、手づくりの案内チラシを作成しました。新聞などでグループの活動が紹介されたのをきっかけに見学に来られる方も現れたため、教務課文化財保護係の方に協力していただき、勉強会も開きました。おかげで町と社会福祉協議会が主催する「こうげわくわく探検隊」やネットワーク友枝が主催する「さあ、行こう！まち歩き」でも町に残る貴重な宝の一つとして巨石塚が紹介され、現地で案内することができました。メンバー一同、保全継承活動を行って本当によかったと話しています。

雄熊山の山頂にある烽火台跡は、周辺の雑木の伐採や歩道の草刈りを行い、入口には看板を設置しました。江戸時代には高速通信網

ました。しかし、かつて祭りで使用していた太鼓は、長年放置されていて使える状態ではありませんでしたが、宝くじの普及広報事業の助成を受け、長胴太鼓など5個を購入しました。現在は、中津地区から中さんを先生に迎え、月一回の練習に励んでいます。「太鼓は全身運動なので肩こりの解消にもなり、毎回の汗をかいています」「早くうまくなって施設に慰問に行ったり、文化祭などで披露したい」と目標もできました。地域の皆さんに太鼓の力強い音を聞いてもらうことで人の輪ができ、祭りに活気を取り戻すなど、交流活動の促進につながらなければならないと思っています。

地域がひとつの大きな家族のように

吉岡地区の地域づくり活動団体には「吉岡巨石塚保全グループ」の他に「吉岡交流会」があります。子どもの登校時には危険箇所を通るまで同行したり、独居老人宅に声をかけるなどの見守り活動を一緒に行っています。

これからも地域一丸となって、文化財の継承活動から広がっていった異年齢交流の機会を増やし、親睦を深めて行きたいと思えます。またこの活動を若い人にも知って頂き継承していくように努めたいと思います。